

BAKER HISTORY

GP&J BAKER (ジーピーアンドジェイ ベーカー) はインテリアファブリックスメーカーとして 125 年をむかえました。その誇りと輝かしい歴史は、数々の改革とドラマに満ちています。コンスタンチノーブル (現イスタンブール) にある英国大使館のガーデナーとして創始者 George Baker (ジョージ ベーカー) のキャリアはスタートしました。コンスタンチノーブルはアジア諸国との貿易の中継地として栄えており、起業家精神に富んだ George Baker は、トルコ



からの商品のヨーロッパへの輸出ビジネスをスタートし、英国に商品の保管所の設立に至りました。後に二人の息子である George Percival (ジョージ パーシバル) と James (ジェームス) を英国に送り、1884 年に GP&J BAKER 社を設立、老舗のプリントメーカー Swaislands Fabric Printing Company を取得しました。当初 18 世紀の版木、保有する大量のパターンブック等からプリントを販売していた GP&J Baker は、1893 年より、オリジナルデザインの製作をスタートさせました。



W.J.Thomas (ダブリュージェイトーマス) の率いる Baker デザインスタジオにて、所有する 18 世紀からの豊富なデザインアーカイブより独自のパターンに発展させていきました。特に George Percival は古いデザインの収集に積極的で、1910 年にはパリのスタジオより 400 を超えるアンティークの版画を取得し、1920

年までに 250 以上の非常に貴重なインドのコットンプリントを収集、Baker のアーカイブに加えしました。それらのコレクションは現在にロンドンのビクトリア・アルバート美術館にて保管されています。



1900 年代の初頭に最もポピュラーだった Baker のプリントデザインは、自然主義的な英国のガーデンフラワーをモチーフとしたものであり、これが現代まで不朽の BAKER スタイルの一部となっています。George Percival 自身も熱心な園芸家であり、特に貴重なアイリスの専門家として Royal Horticultural Society(英国王立園芸協会)の重要なメンバーとなっていました。ガーデニングの流行とともにプリント



フラワーに続いて、優美に魅力的なリピードで表現されたハーブ、ランなどがポピュラーな Baker のプリントモチーフになってきました。又、18 世紀の版画、黄金時代の英国のチンツをベースとしたデザインが Baker の中心的なコレクションの一つとなっていきました。オリジナルのデザインパターンを原型とし、最新のプリント技術を使用し、デコレーションスタ

イルの変化とともに、新たなカラーパレットを追加しながら適応していく Baker のスタイルは、その後、織物、刺繍、壁紙等に引き継がれていきました。多くの Baker デザインは 50 年、時に 100 年にわたり、新たな魅力を加えながら生産され続けています。その過去の歴史との強い繋がりを保ちつつ、常にモダンであり続ける GP&J Baker の改革は今後も変わらないでしょう。



王室御用達証：



GP&J Baker 社は 1983 年に Royal Warrant (英国王室御用達証) を授かりました。当時のプロジェクトとして、英国女王エリザベス II 世が週末をお過ごしになる場所として有名なウインザー城 (Windsor Castle) の女王のベッドルームのインテリア・ファブリックスとして特別な商品の製作を委任されました。以後、ロンドンのバッキンガム宮殿 (Buckingham

Palace) や女王陛下が避暑を楽しむ地として有名なスコットランドのバルモラル城(Balmoral Castle) 等、今日まで英国王室にインテリア・ファブリックスを提供しております。



BAKER FERNS:

1935 年、デザイナー Joseph M. Doran による Baker の”Ferns”は、1777 年に出版された植物描画をベースとして誕生しました。チンツ、リネン地へプリントされたこのデザインは直ぐにヨーロッパ、アメリカのトップデコレーターに人気のデザインとなりました。1975 年には、最新の回転式スクリーンプリントにより生産が開始され、発表から 70 年後の 2006 年にはシルクベースのプリントとして”Pembroke Weaves” コレクションとし生まれ変わりました。



* Baker Ferns カラーパターンブック (1935)

PARADISE BIRD :



*Turnerによるオリジナルデザイン (1918)

“Paradise Bird”(極楽鳥)は、1918に Baker の依頼により、ロンドンにて Arts and Craft (美術工芸) デザイナーとして名声を得ていた William Turner により描かれました。Turner の描く極楽鳥は、古代ローマの軍神マルスの神話にて聖鳥とされるキツツキの上の枝にとまっており、戦争が終わり、パラダイスが再び戻るといふ、象徴的メッセージとされています。Baker の” Paradise Bird “は、100年近くに渡り、現在の”Hanbury” コレクションまで、異なった技術により生産され続けています。



*Paradise Bird カラーパターンブック (1949)

ORIENTAL BIRD:



1910年、Baker 所有のアーカイブより 18 世紀後半の版画をモチーフにした “Oriental Bird” は発表されました。そのオリジナルデザインはハンドペイントの中国の壁紙とされています。スケールに囚われず描写された西洋的なアジサイやバラの花々は、オリジナルデザインに加えられたと考えられますが、冠を持つ鳥 (オリエンタルバード) が象徴的に異国情緒をかもしだします。このデザインは、小振りのデザインパターンを好む当時の流行にマッチし人気を得ました。後に、インテリアデザインのテイストは大柄のパターンへと変化し、Baker の”Oriental Bird” のデザインも 1933 年に、より大柄のデザインにて再発表されました。また、1976 年にはスクリーンプリントの技法により、よりオリジナルのアンティークモチーフに変更され、現在は”Mallory Prints” コレクションとして製造されています。

NYMPHEUS:

大英博物館のコレクションを熱心に研究していたデザイナー William Turner が、1915 年に中国をテーマとして GP&J Baker の為にデザインをしたのがこの” Nympheus” です。大英博物館が取得した中国の明朝時代の絹の巻物、垂れ下がったハスの陰に隠れたシラサギの上をカワセミが飛ぶ姿を描いた毘陵画派 (Piling School) の風俗画をモチーフとしたこのデザインは、いつの時代でも Baker の人気のデザインとなっています。

